

シリーズ 激動中国

パリ協定後の気候変動政策

金 振

博士(法学)、(公財)地球環境戦略研究機関 気候変動とエネルギー領域
研究マネージャー／主任研究員



その48 中国・雅魯藏布江水力発電プロジェクトの現状と展望

世界最大級の水力発電構想の発表

2025年7月19日、中国は雅魯藏布江(ヤルツァンボ川)下流における超大型水力発電プロジェクトの事業主体となる「中国雅江集团有限公司」を正式に設立した。第14次5カ年計画(2021～2025年)国家重点事業として位置づけられている本プロジェクトの総投資額は1兆元を超えると推測される。これは世界最大規模水力発電施設である長江三峡ダム(湖北省宜昌市)の約5倍に相当する。発電能力は最大6000万kW(60GW)、年間発電量は日本全国の年間発電量の3割に相当する3000億kWhのポテンシャルを持つとされ、実現すれば三峡ダムの3倍の規模となる。

技術的には「截弯取直、隧洞引水」と呼ばれる革新的アプローチが検討されている。これは雅魯藏布大峡谷の2,200メートルという世界最大級の自然落差を、トンネルによるショートカットで効率的に活用する方式だ。環境への配慮から、高いダムではなく、複数の低ダムと地下発電所を組み合わせたカスケード方式が採用される見込みである。

ト、2060年のカーボンニュートラル実現という国際協約の達成に向け、年間2～3億tのCO₂削減効果が期待される。第三に、チベット自治区の経済開発と「西電東送」(西部の電力を東部沿海地域へ送る)計画の中核として、地域格差是正にも寄与する。

今後の展望

しかし課題もある。国際的には、下流国であるインドとバングラデシュが水資源への影響を懸念している。インドは対抗措置として独自の水力発電プロジェクトを推進しており、地域的な「ダム建設競争」の様相を呈している。中印間には拘束力のある水資源条約が存在せず、今後の協議が注目される。

雅魯藏布江水力発電プロジェクトの成否は、中国の気候変動対策の信頼性、国際河川管理のあり方、そしてアジア地域のエネルギー地政学に大きな影響を与えるだろう。今後、透明性の確保と国際協調を通じて、持続可能な開発モデルを示せるかが問われている。

中国政府のねらい

このプロジェクトの戦略的意義は多面的だ。第一に、中国の石油輸入依存度が67.4%、天然ガス輸入依存度が38.9%に達する中、国内で自給可能なクリーンエネルギーの確保は喫緊の課題である。第二に、2030年のカーボンピークアウ

●三峡ダム事業との比較

指標	雅魯藏布江プロジェクト	三峡ダム	比較
総投資額	1.2兆元	2072億元	5.8倍
設備容量	6000-7000万kW	2250万kW	約3倍
年間発電量	3000億kWh	約1000億kWh	3倍
建設期間	10-15年	17年	より短期
技術方式	トンネル導水、低ダム	高重力ダム	革新的

出典:新浪財經、EET・電子工程などのウェブ公開記事に基づき整理